



みんなで創り上げる

1年生の図工の時間、砂場に水と空き容器を用意し、近くに咲いている植物や落ちていた木切れなどを利用して、砂を使ったいろんな形作りに取り組んでいました。プリンや団子などの食べ物やウサギなどの動物、掘ったところにたっぷり水を入れて花びらを散らした温泉。砂場に並ぶ想像力たっぷりに創り出された形は実にバラエティー豊かです。

図工の授業の時間など、何かを創り上げているときの子どもたちの生き生きとした表情は素敵です。新しい制作物の取組が始まり、白い紙や粘土、そして箱などの道具を目の前に、さあどんな形にしていこうかと思いついているとき。考え始めてすぐに鉛筆やハサミを動かす子どももいれば、腕組みしているかのような思案顔で一向に手を動かさずとしない子どももいます。どの教科にもいえることですが、1時間ごとの課題に対しどのように向き合うか、そしてどのように考えるかは十人十色です。課題が求めているものが好きだったり、得意だったり、これまでに経験したことと似ていたりすることもあればとっかかりよくできますが、反対に苦手意識を持っていたり、まるっきり経験したことがないことだったりすると時間を要することがあります。もちろん、時間をかけて丁寧に考えるのは大切なことですが、学習時間には限りがあるので際限なくというわけにもいきません。

その限られた時間を有意義なものにするためには学びあいながら課題に取り組むことは有効です。学びあうことは一人ひとりの力を引き出すための大切な過程だと思います。ペアやグループで相談しながらアイデアを出し合うのもいいですし、お互いの制作の様子を見合ったり、考えを聴かせてもらったりするなど、個々で考えたことを交流し合うことも立派な学びあいです。はじめは思いつくことのできなかったアイデア、予想もつかなかった工夫、考えもしていなかった思考の道筋をたどることもできたりします。それは、あたかもひらめきのスイッチが入ったかのような経験だと思います。そんな経験が生み出されることが学びあいのいいところであり、みんなで創り上げる授業には必要な過程だと思います。

みんなで言えば、今月行われた運動会。集団で行う競技はもちろんのこと、個人競技であっても、組のためにという気持ちで競技に臨み、声を出して仲間を応援する姿を見ていると、みんなで運動会という行事を創り上げていたように感じます。なかでも運動的な要素に芸術的な要素が加わったよさこいは、“みんなで創り上げる”という色彩を強く感じます。これまで受け継がれてきた伝統の舞に、今年の動きや体形が新たに加わり新しいよさこいが創り上げられていく時。練習を重ねるうちに、なかまの掛け声や動きに刺激され合いながら、相乗的にどんどん完成度が高まっていく。一人ではできないことでも、みんなとなら創り上げることができる。なかまが頑張っているから自分も頑張れる。そんなふうな想いで、いいものを創り上げていこうとする時は、まさに“みんな^{過程}で”だと感じました。

行きつ戻りつしていた季節も日によっては一気に夏日を演出する陽射し。ようやく季節も看板を書き変えたよう。学級も、学校もしっくりとしてきたところで、暦をめくれば学期のまとめ月を迎えます。

“リンと立つのは空の青い夏”。どうぞお体にご留意いただければと存じます。